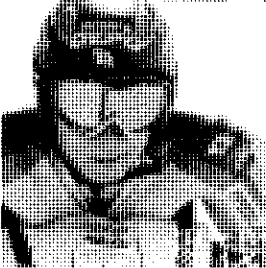


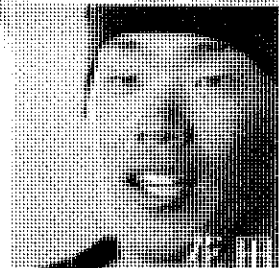


スプリングキャンプ参加メンバー



北村直樹

北海道東海大学スキー部



佐田将司

北海道東海大学スキー部



岡田利博

天山リゾートスノースポーツクラブ



高橋 龍之介

東海大学第四高校



佐々木 明

ガーラ湯沢



吉岡 大輔

チームアルビレックス新潟



生田 康宏

東京美装興業スキー部



皆川 賢太郎

チームアルビレックス新潟



「トップチームの選手たちと同じ環境でトレーニングできることがうれしい。いろいろなことを吸収したい」

03/04シーズンの全国中学校スキー大会でGSとスラロームの2冠。その頃から大越龍之介の類い希なスキーセンスは大きな注目を集めていた。昨年、高校生になり、初めてナショナルジュニアチームのメンバーにも選出。これからの飛躍が期待されていた矢先、シーズン終盤のFISレース(GS)で優勝して、誰もが予想だにしなかった早さで大きな飛躍を遂げる。10点台の高ポイントを手に入れた。一躍世界の同世代のなかでもトップクラスのランキングに位置することになる。そうした結果が大きく評価された形で、今回のスプリングキャンプにも参加することになった。今からトリノ・オリンピックの代表をめざすことはむずかしいかもしれないが、大越はその先の戦いをどのように見据えているのだろうか。

大越龍之介(以下、大越) 昨シーズンは、自分にとってはつらいシーズンでした。たしかにシーズンの最後に大きな結果を残すことができたけど、ケガの影響があつて満足にトレーニングを行なうことができませんでした。インターハイには何とか出場しましたが、全日本選手権やジャパンシリーズなどの大事なレースで、まともに戦うことができなかった。だから、野沢のFISレースの優勝はうれしかったですね。

SJ 優勝したときの率直な気持ちは？
大越 正直、びっくりしました。朝から深い霧が出て、中止になるかと思つたけど、何とかレースがスタートした。1本目で良い順位につけることができたので、チャンスだとは思いましたけど、まさか優勝できるとは思わなかった。ラッキーだとも思いますね。

SJ そうした結果を残して、今回このマンモスマウンテンでのキャンプに参加することができた。このキャンプに参加して、どんな

大越龍之介

東海大学第四高校



Ryunosuke OHKOSHI

インタビュー=編集部



上 まだ16歳。この経験が近い将来の大きな糧になつてくれることを期待したい。下 GSのポイントにはチーム内でも吉岡大輝に次ぐ2番目。このポイントをしっかりとかかしてほしい

ことを感じていますか？ また、このキャンプで、どんなことを目標に持っていますか？
大越 (佐々木・明さんや、新井川・賢太郎さんなど、シニアチームの選手たちと同じ環境でトレーニングできることがうれしいし、いろいろと学ぶことができると思います。上の選手に比べると、自分の足りないところや課題がほとんど見えてくるので、吸収できるものは吸収して、それをこれからのトレーニングにも活かしていければいいと思います。

SJ とくにフィジカルトレーニングを見ていても全体的な筋力不足が感じられて、身体作りが重要だと思うけど、それは自分でもやはり感じている？
大越 そうですね。ナショナルチームに入ったことで、効率の良い科学的なトレーニングの方法を教えてもらっているんで、この夏はしっかりと陸上トレーニングを行なって、基礎的な身体能力、とくに筋力を伸ばしていきたいです。もちろん、スキーの技術的にも向上させていかなければいけないところがたくさんあるんで、まだ何もかもが足りないと思つています。

SJ 今回、初めてシニアチームのトレーニングに参加してみて、チームの雰囲気はどう感じました？
大越 やはり歳下なので、まだ遠慮してしまふ部分もあると思います。でも、とくに雪上では、シニアチームの選手たちにも負けられないように、遠慮せずにトレーニングしていきたい

いという気持ちはあります。また、トップチームの選手たちは、やはりそれぞれが高い意識を持って、自分に足りないこと、やらなければいけないことを行なっているとも感じるので、そういったところも学んでいければと思います。

SJ GSで高いポイントを獲得して、今回のキャンプもGSのトレーニングや基礎的なフリーレーシングが中心だけど、それをどのようにスラロームに活かしたいと思つていますか？
大越 GSはたまたま大きなポイントが取れたけど、スラロームはまだまだポイントも低いし、練習していかないといけないと思います。もちろんGSもこのポイントを活かして、もっと上に行けるようにがんばりたい。

SJ さて、来シーズンのスケジュールを考えると、トリノ・オリンピックも視野に入ってくると思いますが、トリノは現実的な目標としてとらえていますか？
大越 もちろん出ることができれば良いと思います。でも、まずは世界で戦うことができれば、実力を身につけて、ワールドカップでの活躍をめざしていきたい。オリンピックはトリノのあとの、バンクーバーをひとつの目標にしたいと思つています。最終的な目標は、明さんや賢太郎さんのように、ワールドカップで戦いたい。その前に来シーズンは、インターハイなど国内のレースで、しっかりと結果を残していきたいと思つています。